

出演者一覧 (五十音順)

南漣会合唱団

| | | | | | | | |
|----------|----------------|----------------|---------------|-------|--------|--------|-------|
| トップテノール | 岡橋 博 森本 眞一 | 神代 一徳 吉田 教昭 | 寶木 健一 | 田中 宏和 | 長田 幸一郎 | 福家 伸治 | 松波 謙至 |
| セカンドテノール | 今村 肇 | 尾崎 納 | 白井 清貴 | 菅原 基晴 | 富増 和彦 | 長谷部 資朗 | 宮内 泰 |
| バリトン | 石原 潤一 安井 永 | 太田 一忠 横田 卓郎 | 瀧井 尚志 | 辻 秀郎 | 野津 直樹 | 花澤 光正 | 松井 繁明 |
| ベース | 赤崎 弘平 仲嶋 研一 | 今道 隆夫 牟田 岑男 | 扇田 豊 和田 昭夫 | 小倉 裕 | 海谷 叔伸 | 曾家 義晴 | 田中 彰一 |

東京南漣会合唱団

| | | | | | |
|----------|-------|--------|-------|--------|------------|
| トップテノール | 浅野 敏郎 | 稲留 雄一 | 岡本 直久 | 北 正己 | 米花 務 |
| セカンドテノール | 大内 一 | 鶴田 観治郎 | 西村 文秀 | 平手 彰 | |
| バリトン | 今井 啓太 | 梶谷 俊一 | 木田 豊 | 祖父江 浩之 | 宗像 弘信 |
| ベース | 井上 嘉雄 | 掛谷 正宏 | 北野 友一 | 諏訪部 和彦 | 柚木 裕文 吉岡 稔 |

大阪公立大学グリークラブ

| | | | | | |
|----------|-------|-------|--------|-------|-------|
| トップテノール | 荒木 陸 | 關 奎輝 | 日吉 健人 | 加藤 舞美 | 永井 真菜 |
| セカンドテノール | 小島 壮介 | 川口 剛史 | 松田 悠太郎 | 宮長 夏希 | 安田 葵 |
| バリトン | 大木 賢祥 | 田中 慶彦 | 白石 真也 | | |
| ベース | 橋本 光稀 | 伊藤 誠悟 | 牧野 茂彰 | 小川 翔也 | 森田 隆文 |

旧大阪市立大学グリークラブOB賛助出演者

| | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| セカンドテノール | 高田 達治 | 熊代 厚生 | 三輪 剛 | 山縣 真矢 | 吉田 耕太郎 |
| バリトン | 石井 欽三 | 坂口 敏宣 | 棟居 秀信 | | |
| ベース | 浅野 庄治 | 茂山 和基 | 城本 竜也 | 渡邊 聡 | |

南漣会合唱団 第22回定期演奏会 創立80周年記念公演

私はここにいる



祝

南漣会合唱団 第22回定期演奏会 創立80周年記念公演

大阪市立大学同窓会(全学同窓会)
有恒会(文系学部及び都市経営研究科・創造都市研究科同窓会)
理学部同窓会・工学部同窓会・医学部医学科同窓会
生活科学部同窓会・看護系同窓会よつば会

大阪市立大学同窓会は、2025年3月まで存続し、大学支援・在学生支援を中心に同窓会活動を展開します。同窓会活動については、大阪市立大学同窓会HP並びに大阪市立大学同窓会メールマガジン(毎月15日)にて適時配信します。

大阪市立大学同窓会会長 岡本直之

2022年11月27日(日)
東大阪市文化創造館
Dream House(大ホール)

南漣会創立80周年記念公演を祝す

南漣会合唱団第22回定期演奏会 創立80周年記念公演が盛大に開催されますことを、こころよりお慶び申し上げます。

昭和15年(1940年)に設立された南漣会が、80余年の長きにわたって、大阪市立大学学生の合唱活動を支援してこられたこと、またOBと一般男声合唱愛好家で構成される南漣会合唱団が、関西の男声合唱団体の有力な一員として活発に活動してこられたことに敬意を表します。

大阪市立大学と大阪府立大学が統合して大阪公立大学となった現在、学生サークルおよびそのOB・OG団体による活動は、ますます重みを増しつつあります。本日は、大阪公立大学グリークラブの皆さんもステージに立って、力強い歌声を聞かせてくれることでしょう。皆様方のますますのご活躍を期待いたします。



大阪公立大学学長 辰巳砂 昌弘

団長挨拶

本日はご多忙のところ「第22回定期演奏会」にご来場賜り厚く御礼申し上げます。

今回の演奏会は、旧大阪商科大学・大阪市立大学グリークラブOBで組織された南漣会の「創立80周年の記念演奏会」でもあり、全国の南漣会諸氏が一同に会した演奏会であります。

最初に、この挨拶文を認めます折は“コロナ”は相当取まってきておりました。

そこで、演奏会は「ノー・マスク」で臨むことに決めました。何卒ご容赦ください。

さて、当団もほかの合唱団同様2年有余の忍耐を強いられました。その中で再び歌うための方策を探しました。先ずは十分に広さのとれる練習場からでした。幸いにも、本日の演奏会場に付設された練習場を見つけることができ、それから「コロナ感染防止マニュアル」を作り、手探り状態で練習を積み重ねて参りました。面白いもので、こんな時でも団員の求心力が削がれることはありませんでした。その底には、団員の歌いたい”心”が有ったのだと思っています。

無論ここまで来られたのも様々な人達の支えがあったからです。「今ここにいる」というタイトルはそんな団員の気持を表したものです。度重なる災厄を乗り越え、皆が繋がり・支えあい・互いに声を交わし「今ここにいる」と声を上げ前進する。そんな時に、“歌う”ことで更なる喜びを分かち合えればこの上ない幸せであります。

オープニングステージは、南漣会グリーンメンに80年来受け継がれた我らの歌「學園(まなびや)」を歌います。歌の意味合いをたっぷり味わっていただければ幸いです。

南漣会合唱団団長 尾崎 納



2019年第39回ANCORの会

プログラム

Opening 南漣会合唱団／東京南漣会合唱団／大阪公立大学グリークラブ／南漣会会員

指揮：宮内 泰

「學園(まなびや)」—大阪商科大学に寄す(昭和15年)— 金子仁作 作詞 加藤直四郎 作曲 ※

Stage 1 南漣会合唱団

指揮：海谷叔伸 ピアノ：石幸千照

男声合唱組曲「海鳥の詩」 更科源蔵 作詞 廣瀬量平 作曲

1.「オロロン鳥」 2.「エトピリカ」 3.「海鷲」 4.「北の海鳥」

Stage 2 東京南漣会合唱団

指揮：今井啓太 ピアノ：佐藤良子

ポピュラー曲集

1.「男声合唱のためのヒットメドレー YUME」 三沢治美 編曲

「故郷」 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲／「夢で逢えたら」 大滝詠一 作詞・作曲

「虹と雪のバラード」 河野文一郎 作詞 村井邦彦 作曲／「いつでも夢を」 佐伯孝夫 作詞 吉田正 作曲

2.「誕生」 中島みゆき 作詞・作曲 源田俊一郎 編曲

3.「君をのせて」 宮崎 駿 作詞 久石讓 作曲 信長貴富 編曲

Stage 3 大阪公立大学グリークラブ

指揮：森田隆文 ピアノ：牧野茂彰

男声合唱とピアノのための組曲「憧れと共に」 佐藤賢太郎 作詞・作曲

1.「歌に憧れて」 2.「音楽になって」 3.「決意」 4.「僕が歌う理由(わけ)」 5.「僕の歌が続く理由(わけ)」

Stage 4 南漣会合唱団

指揮：宮内泰 ピアノ：石幸千照

「届けたいおもい」

1.「Sailing,Sailing」 大阪メンズコーラス 編曲

2.「群青」 福島県南相馬市立小高中学校 平成24年卒業生 作詞 小田美樹 作曲 信長貴富 編曲

3.「Volare～男声合唱とピアノのためのサンバ風アレンジ～」 Domenico Modugno 作詞・作曲 小倉史郎 編曲

4.「負けないで」 坂井泉水 作詞 織田哲郎 作曲 なかにしあかね 編曲

5.「栄光の架橋」 北川悠仁 作詞・作曲 田中達也 編曲

Stage 5 南漣会合唱団／東京南漣会合唱団／大阪公立大学グリークラブ／南漣会会員

指揮：海谷叔伸 ピアノ：石幸千照

男声合唱組曲「水のいのち」 高野喜久雄 作詞 高田三郎 作曲

1.「雨」 2.「水たまり」 3.「川」 4.「海」 5.「海よ」

※Opening:「學園(まなびや)」について

「學園(まなびや)」の生まれた1940年(昭和15年)は大阪商科大学が創立60周年を祝い、世の中は皇紀2600年に沸いていたが、日中戦争(支那事変)はいよいよ泥沼化して、重苦しい気配が漂っていたころである。

作詞は金子仁作(1918～1989)。卒業を翌年にひかえ、最盛期の大阪商科大学合唱団の活動にますます身を入れていた。作曲は加藤直四郎(1908～2009)。東京音楽学校を昭和6年に卒業した、32歳の大阪府立夕陽丘高等女学校教諭。

大阪商科大合唱団のOB会「南漣会」も、この年に金子らによって組織され、第1回演奏会を6月10日大阪ガスビルホールで開催、「學園」はここで初演され、今日まで80余年にわたり歌い継がれている。

第1ステージ

南漣会合唱団

男声合唱組曲「海鳥の詩」

『海鳥の詩』では、曲名になっている「オロロン鳥」・「エトピリカ」・「海鷲」と最終曲の歌詞にケイマフリの鳥が登場します。

海鷲は日本全国に生息していますが、他の鳥たちは主に北海道でも北のオホーツク海や日本海など非常に厳しい自然の中で生きています。作詞者は、「暗くわびしい日本の運命的な時代を生きた私自らの姿を、荒く厳しい風土の中で生きる北の海鳥の姿に託してうたったもの」と解説している通り、エトピリカの歌詞では「氷の臭いにしびれ／ぎこちなく／カタカタと翼ふるわせ／火を抱いて／ゴーゴーと鳴る／荒瀬に生命(いのち)さぐる／エトピリカ」と鳥たちの厳しさを詩っています。ただ、最終曲では、「天と地の／空と海との／人と神／一つにとける／キラキラの／光の彼方／南天の／星をめざすか／北の海鳥」と厳しいシタキ(雪や雨をとまなう突風)にも負けずに精一杯に生きる海鳥たちにエールを送る賛歌として終わっています。

オロロン鳥はウミガラスと言い、その鳴き声「オロロン」からオロロン鳥と呼ばれています。You tubeでその鳴き声を聞くことができますが、併せてハシブトウミガラスやオオセグロカモメなどの鳥たちに卵や雛が捕食されている悲しい場面も見ることができます。エトピリカ、ケイマフリはその生息地からアイヌの人々と縁があり、鳥名もアイヌ語でエトピリカ(くちばしが美しい)、ケイマフリ(足が赤い)という意味があるそうです。

海鷲は、鷲飼いに用いられる鳥で、他の鳥よりはなじみがあるように思えます。長い首が特徴ですが、歌詞では「鷲は鳴かない(本当にあまり鳴かないようです)／首をのぼして／寒流をさぐり／首をちぢめて／暖流をきく」と海鷲が岩礁であたかも潮や風を聞いているようです。『海鳥の詩』は、北海道の海鳥だけを詠ったものではありません。戦前から北海道在住の詩人として知られていた更科源蔵が太平洋戦争中の詩作がもとで戦後、戦争協力者となじられた時期に作られた第三詩集「無明」の中の「海鷲」のこの一節は、含むものが多いのではないのでしょうか。



和歌山にて海谷撮影：おそらく海鷲と見えます

第2ステージ

東京南漣会合唱団

ポピュラー曲集

1. 男声合唱のためのヒットメドレー「YUME」

"夢"というと、眠りの中でみる「夢」もあり、また「未来に描く希望」としての夢もあります。まさに私たちを素敵なお世界へ誘ってくれるファンタジーとロマンを感じさせるキーワードです。そんな"夢"をテーマにしたメドレー曲集から、下記4曲を歌います。皆さんご存知の曲かと思いますので、どうぞ寛いでお聴き下さい。

- 故郷…1914年から歌われている有名な文部省唱歌。
- 夢で逢えたら…1976年に発表された曲で、吉田美奈子、鈴木雅之、吉岡聖恵等多くの歌手がカバー。
- 虹と雪のバラード…1972年2月に開催された札幌オリンピックのテーマソングでトワ・エ・モア等が歌った。
- いつでも夢を…1962年に発売されて大ヒットした橋幸夫と吉永小百合のデュエット曲。

2. 君をのせて

1986年に上映されたスタジオジブリの映画「天空の城ラピュタ」の主題歌で、歌手 井上あずみの曲。「天空の城ラピュタ」は、父が見たという天空に浮かぶ城ラピュタを探し出そうと夢見ている少年パズーが主人公の冒険ファンタジー作品。歌詞は少年パズーの視点から描写されており、「君」とは映画に登場するヒロインのシータ、「ぼくら」とは「パズーとシータ」を意味します。

3. 誕生

1992年に中島みゆきが発表した曲で、名もなき者たちへの無条件の慈愛に満ちた賛歌。今回の編曲では中間部分がボサノバ調で、トライアングルとマラカスが加わり、曲想がガラリと変わるところを楽しんでいただけたらと思います。最後は最初の曲調に戻り、「Remember／生まれたこと／Remember／出逢ったこと／Remember／一緒に生きてたこと／そして覚えていること」と歌い上げてエンディングとなります。

第3ステージ

大阪公立大学グリークラブ

男声合唱とピアノのための組曲「憧れと共に」

1. 歌に憧れて

タイトルからわかる通り、歌に対する憧れがテーマとなっているこの曲。音楽と初対面したときの、あのなんとも言えない不思議な気持ち、ワクワクやドキドキもそうだが、感動でもあり希望に満ち溢れた、いわゆる憧れが曲の、特にピアノの旋律に垣間見える。そのピアノに乗せて歌い手の中に秘める思いを歌っていく。

2. 音楽になって

誰もいない練習室に一番乗りするところから始まる。緊張とは違う、キンとした空気の中、ユニゾンがその空気を破る。そこから音楽が進みだし、やがてスケールが大きくなり、そして転調と共に盛り上がっていくが、その盛り上がりも次第に落ち着いていき、最後にはハミングとなって消えていく。

3. 決意

テーマである決意には覚悟が伴い、それには様々なものがある。前に向かうための覚悟。その場に踏みとどまる覚悟。そして目の前の人が何かしらの覚悟をしたとき、皆さんはどのようなことを心に抱くのだろうか。そのようなことを考えながら聞いてほしい1曲である。

4. 僕が歌う理由(わけ)

歌と出会ってしばらくしたとき、ふと自分はどのように歌うのだろうか、歌うことのどこに価値を見出しているのかと考える。色んなことを経験したがゆえに難しく考えてしまうが、答えは意外と簡単で、初めて聞いたときに感じた憧れに魅了されたからである。そして今はそれだけではなく、周りにいる憧れに魅入られた仲間と共に歌うことができる喜びも含まれるであろう。アカペラがそのことをより引き立たせ、ハーモニーが心を震わせる。

5. 僕の歌が続く理由(わけ)

憧れを想起させる旋律をピアノが奏でるが、その旋律はかつて聞いたものとはどこか異なっている。決意や覚悟という過程を経て、憧れとは似て非なる深いものとなったためである。そんな新たな「憧れ」を胸に抱き、先へ進んでいく姿を刮目していただきたい。

第4ステージ

南漣会合唱団

届けたいおもい

1. Sailing! Saling!

sea shanty(海の仕事で歌われる労働歌)の代表的な1曲。進め、進め、大海原を超えて。強風が吹く、我々の帆船は、勇ましく進んでいけだろう。そして明るく歌っていく。元気の出る曲です。コロナ禍の沈滞ムードを破っていく意味で、「届けたいおもい」のステージの一曲目として、選曲しました。

2. 群青

東日本大震災のあと、福島県南相馬市の小高中学校の当時の生徒達によって、作詞され、小田美樹先生によって作曲されました。原発の事故により全国に避難していた仲間のことを思い、地図を見ながら「遠いね」「でも、地図の上の空はつながっているね」と気持ちを言い合いました。

3. Volare

イタリアの歌曲。ビールの宣伝で有名になりました。「青の中の青を、私は飛んだ。あんな夢は二度と戻ってこないだろう。」と、歌っていきます。イタリアの人たちや風景の明るさを想像させる曲だと思います。ドメニコ・モズユーニョが歌いました。彼は、第一回グラミー賞の最優秀レコード賞、最優秀楽曲賞をとりました。

4. 負けないで

Zardの曲。坂井泉水さんは、自分自身で書いた歌詞で曲をつけてレコーディングする活動をしていました。1967年生まれですが、2000年頃から、子宮筋腫などの病氣と闘っていましたが、2007年、40歳で、病院内で謎の死を遂げたと言われています。

5. 栄光の架橋

ゆずの北川悠仁の作詞・作曲。2004年7月にリリースされる。NHKアテネオリンピック中継公式テーマソング。作曲者の北川さんは、「僕らは路上でアコースティックギターで素朴な曲を歌うイメージだったけど、XJAPANのような広がりのあるダイナミックな壮大な曲を作りたいと思ったと制作秘話が語られています。

第5ステージ

合同演奏

男声合唱組曲「水のいのち」

『水のいのち』は天空から降った雨が、あるものは地表に溜まりますがやがては川となって海に注ぎ、最終的には蒸発して天空に帰っていくように、あたかも「水」のサイクル(一生?)を表しているようにも思えます。作詞は高野喜久雄で、これらの詩は一連の詩として書かれたものではなくて、作曲者の高田三郎が「水たまり・川・海」を読んで曲の構想を考え、その構想に従って「雨・海よ」を書きあげたようです。高田はクリスチャンですから輪廻転生を意識していないかもしれませんが、高野は仏教徒ですので輪廻転生の考えがあったかもしれません。でも、お二人は、クリスチャンと仏教徒と違えども、深い信仰によって結びついていたことよく言われることです。それは「水のいのち」という題名の「いのち」という言葉の捉え方をみても強く感じます。

1.「雨」

すべてのものに生き返らせるために天空から地表に降り注ぐのですが、そこに恩着せがましいのではなくて、無意識(無我)であるかのように感じます。静かな曲です。

2.「水たまり」

雨として降り注いだ水の一部は小さな水たまりとなります。それは小さないのちで泥水となりますが、水面には美しい空を写すように「水たまり」にも青空のように澄もうと思う気持ちがあるのです。

3.「川」

水は空にあこがれているのですが、それに反して「下へ下へ行くしかないのです」。内蔵する魚などは「上流にさかのぼれるのに」です。そこに葛藤があるのですが、あたかも人の生きる悲しみを表しているようにも思えます。

4.「海」

凡ての川は海をめざして流れます。それはある意味「死」を意味するのもかもしれません。受け容れた海は、あるべき姿や場所に移しますが、人間も同様にあたかも「母」の胸に安らぎを求めるとともに海をめざしているのかもしれない。そして十分な時を経た「満ち足りた死」を与えるのです。

5.「海よ」

川として汚れ疲れた水は海は無条件で受け容れます。穏やかな世界が広がっていますが、やがて深くて暗い海の底へいきます。そこは終わりではなく始まりなのです。新しい「いのち」が誕生し、ずっとあこがれていた天空へのぼりゆく喜びが表現されています。

指揮者・演奏者プロフィール



海谷 叔伸(南漣会合唱団／指揮者)
旭高校音楽部および大阪市立大学グリークラブで指揮者として参加し、卒業後は現在まで混声合唱団コールA.Oで指揮を務めています。南漣会合唱団には2016年に入団し、翌年より指揮者として活動していますので、混声合唱と男声合唱の二つの合唱曲を振っていることとなりますが、それぞれの曲の感じ方など多少の違いはあるとはいえ、その個性を満喫しています。今回お届けする「海鳥の詩」「水のいのち」は混声では経験がありますが、初めての男声合唱を楽しみます。



宮内 泰(南漣会合唱団／指揮者)
大阪市立大学在学中、2～4回生で指揮者を務めた。中学校に勤務時は、吹奏楽部の指導を続けた。最近8年間で、南漣会合唱団の指揮者を続けている。ベートーベン、モーツァルトが特に好き。Jazz、ラテン、中島みゆき、尾崎豊など、いろんなジャンルも好む。合唱では、特に、アカペラ作品が好き。今回の「届けたいおもい」のステージでは、特にコロナで、人と人の絆が途切れがちになることから、連帯を呼び起こしたいです。



今井 啓太(東京南漣会合唱団／指揮者)
5歳からヤマハ音楽教室に入り、18歳までピアノの個人レッスンを受ける。大阪市立大学入学と同時にグリークラブへ入部、3年から4年にかけて学生指揮者を務め、岩城恵一氏の指導を受ける。また4年間湯浅富士郎氏に師事し発声法と声楽を学ぶ。好きな作曲家はショパン、リスト、ラフマニノフ、コールポーター。大阪市立大学経済学部昭和60年卒。



森田 隆文(大阪公立大学グリークラブ／指揮者)
奈良県出身、生粋の奈良県民。関西弁かと思いきや、そこまで関西弁が喋れない奈良県民。大学に入ってから合唱と出会い、以降合唱の虜になり、今では指揮を振っている。界限では「ふみくん」という愛称で呼ばれているが、4回生の現在、後輩から「ふみくんさん」という形で呼ばれることに疑念を抱き始め、後輩の前では「ふみ」と名乗るが、周りには「ふみくん」と呼ぶため、結局「ふみくんさん」等と呼ばれ、諦めたことはここだけの話である。



石幸 千照(南漣会合唱団／ピアニスト)
大阪芸術大学を学費全額免除生として卒業。同大学芸術専攻科修了。卒業時、演奏学科研究室賞受賞。卒業演奏会、関西新人演奏会に出演。第1回大阪国際音楽コンクール入選。1999年秋期特別コースにて、A.イエンナー氏に、2001年マタイザー・ゾンマー・アカデミーにてG.ルードヴィッヒ氏に師事。これまでに、故岡坂恭子、U.シュニーベルガー、平井令奈の各氏に師事。2004年ジョイントリサイタル開催。2005年関西フィルハーモニーオーケストラと協演。2006年ロシアにて国立アカデミーオーケストラと協演。大阪芸術大学伴奏要員を経て、現在関西女子短期大学非常勤講師、NHKコールマドリガル、エトワールかしわら、女声合唱団ソルジェールのピアニスト。南漣会合唱団を2000年よりピアニストとして支える。全日本ピアノ指導者協会会員。



佐藤 良子(東京南漣会合唱団／ピアニスト)
都立芸術高校、お茶の水女子大学を卒業後、ミュンヘン国立音楽大学に留学。ピアノ科修士課程にてゲルハルト・オピッツ教授に師事。留学中、オーケストラとの協演やリサイタルを開催、マイスター・ディプロムを取得。またワルシャワ、ザルツブルグで夏期マスタークラスを受講、修了演奏会に出演。W.ケンプ財団支援ベートーベン・ピアノ●●講座に招待参加(イタリア)。2019年にはウィーン市内数か所でピアノソロ、声楽伴奏のほか、パイプオルガンによる合唱伴奏を務めた。



牧野 茂彰(大阪公立大学グリークラブ／ピアニスト)
初めまして皆様。大阪市立大学経済学部4年生の牧野茂彰です。パートはベース。伴奏者というほど大層なものではありませんが、皆でいい音楽を作っていきたいですね。余談ですが、9月末に合気道部の合宿中、左鎖骨を骨折してしまい、全治4ヶ月の大怪我。絶賛リハビリ中の人間のピアノを聞ける機会もそうないのではないのでしょうか。怪我、入院して分かったことは、怪我なんてするもんじゃないということです。皆様、健康第一で!

南漣会の歩み

南漣会の設立と推移

設立は昭和15年(1940年)。当初は、現役学生部員と、大阪商科大学合唱団OBとが、定期的に演奏会を持つことを目標にして活動するのが、設立趣旨であったと伝えられています。「南漣会」という名称は、大学が大阪市の南部に位置し、市章の「漣標(みおつくし)」と合わせて作られたものです。

意気高く発足した南漣会は、その年6月に最初の演奏会を大阪ガスビルで開催しました。しかしその後は戦中・戦後の混乱の中に十分な活動ができず、OBが親睦を深めつつ、物心両面で現役グリークラブを支援する活動に重点が移ります。

合唱団としての活動

合唱活動があらためて始まったのは、昭和28年(1953年)以降のことで、市大グリーの定期演奏会に南漣会員有志が単独ステージや学生との合同ステージに立ったり、また定例的に集まって合唱を楽しんだりしました。昭和39年(1964年)に第2回演奏会を開催、昭和55年(1980年)に市大建学100周年を迎えるにあたって、前年に南漣会を母体とする「南漣会合唱団」を再編、昭和55年3月8日に第3回演奏会を開き、それ以来隔年で定期演奏会を開催してきました。

また昭和56年(1981年)には毎年開催の「五つの男声合唱の集い」(京大・大阪市大・東大・阪大・神戸大のOB母体の合唱団の集まり「ANCORの会」主催)に毎年参加、平成15年(2003年)からは、隔年開催の旧三商大OB男声合唱団交歓演奏会(一橋大・大阪市大・神戸大のOB母体の合唱団の集まり)にも参加しています。



S50.9.14 大阪市立大学グリークラブ50周年記念レセプション集合写真